

葛谷栄一の 異見私見



あなたは映画「ワーカーズ 被災地に起つ」について小耳にはさんだことはないだろうか。これは日本労働者協同組合連合会、通称ワーカーズコープ

が、東日本大震災で甚大な被害を受けた東北を舞台に、復興に向けて地域で協働しながら奮闘する人々の姿を追ったドキュメンタリーで、厚生労働省の推薦映画にもなっている。

昨年10月に東京のポレポレ東中野で劇場公開されたのを皮切りに、全国各地で自主上映の運動が展開されつつある。

平右衛門研究会の前後祭的位置づけも兼ねて上映されたもので、川崎平右衛門顕彰会・研究会和ワーカーズコープとの共催による。蛇足にはなるが、川崎平

右衛門は武蔵野新田開発を成功に導いた一番の功労者である。その後、美濃三川の治水工事、石見銀山の復興にもあたり、いずれもそこで働く者たちの協同

の力を引き出すことによって成功させた。二宮尊徳よりも100年前に、偉大なる功績を上げながらも知る人は少ない。顕彰会・研究会は、平右衛門を

17年12月の22カ月にわたって、被災者たちがワーカーズコープに加わって、被災地での仕事おこし、まちづくり

に取り組み活動の丹念に追いかける。岩手県、食料等の展開。宮城県、登米市での廃園した幼

で、いつしか支える側・支えられる側という枠は消え、そのつながり・かかわりによるコミュニティが育まれていく。姿が描かれる。森庸行監督は、震災復興への取組を一つとして、自分たちの生きている時代を見つめ直し、「震災後を生きる」ために、協同労働によって「二人ひとりの文」字通りの基本的人権を持った人間として働き、生きていくことを訴える。「二人にしない、させない」作っちゃおうよ」をはじめとする

（農的社会的サイン研究所代表）

映画『ワーカーズ 被災地に起つ』の自主上映の輪を広げよう

大槌町での地域共生ホームを開所しての、通所介護や学童保育、お茶っこサロン、菓子工房の展開。宮城県気仙沼市での共生型福祉施設を開所しての、生活

世に広く知らしめることを、協同について理解促進と協同活動の活性化をめざして、3年前に立ち上げたものである。

映画は16年2月から

登米市での廃園した幼

で、いつしか支える側

森庸行監督は、震災

協同労働法の成立も

者、経営者、出資者を